

草花類の暗期中断処理における 電球色蛍光灯の品目別適応性

苗木・花き部

1 背景、目的

草花類の生産では、光源を用いて日長を操作する電照栽培が行われています。しかし、現在、生産現場で広く用いられている白熱灯は、製造・販売の縮減が決まっています。このため、白熱灯に代わる照明器具を選定する必要があります。

そこで、安価で入手可能な電球色蛍光灯の光源としての適応性を評価しました。

2 成果の内容、特徴

- 1) ヒペリカム、シレネ、ヒマワリおよびカルタムスは、電照栽培に電球色蛍光灯を用いることができます（図1、表1）。
- 2) アレンジメントアスター、ブプレウラムは、電照栽培に電球色蛍光灯を用いることができません（図1、表1）。
- 3) エラータム系デルフィニウム、カンパニュラ・メディウムは、電照栽培に電球色蛍光灯を用いると切り花品質がやや低下します（表1）。
- 4) マトリカリアは、電照栽培に電球色蛍光灯を用いると開花がやや遅延します（表1）。
- 5) スカビオサ、ブルーレースフラワー、ストック、ソリダゴは、電照栽培に電球色蛍光灯を用いると開花が大幅に遅延します（表1）。

3 主要なデータ・画像など



ヒペリカム アレンジメントアスター ブプレウラム

図1 光源の違いが開花反応および切り花品質に与える影響

- 注) 1. 夜間最低8℃加温
2. 定植後から開花まで暗期中断4時間(22:00~2:00)

表1 電球色蛍光灯の適応性評価結果

品目	開花反応 ¹⁾	切り花形質 ²⁾	総合評価 ³⁾	備考(評価根拠)
ヒペリカム	-3	○	◎	
シレネ	±0	○	◎	白熱灯と同等
ヒマワリ	+1	○	◎	
カルタムス	+2	○	◎	
デルフィウム	-5	△	○	切り花形質 やや低下
カンパニュラ・メディウム	+1	△	○	
マトリカリア	+4	○	○	開花 やや遅延
スカビオサ	+11	○	△	開花 大幅遅延
ブルーレースフラワー	+10	○	△	
ストック	+14	○	△	
ソリダゴ	+15	○	△	
アレンジメントアスター	+7	×	×	開花 大幅遅延
ブプレウラム	+8	×	×	切り花形質 低下

- 注) 1. 開花反応: 白熱灯の開花日を0とした場合の電球色蛍光灯の増減日数
2. 切り花形質: ○白熱灯と同等、△白熱灯にやや劣る、×白熱灯に劣る
3. 総合評価: ◎適応性あり、○適応性はあるが留意点あり、
△開花反応を考慮する必要あり、×適応性なし